



いつでも気軽に立ち寄れる  
地域の子育てひろば

こども家庭センターのスタッフが子育てについての情報を発信していきます！

今月のピックアップ

～ 子育て支援センターに遊びに来ませんか？ ～

子育て支援センターは、子育て中のプレママ、パパ、未就学のお子さんとおうちの方が一緒に遊んでいただけます。「うちの子はまだ小さいから」「人見知りだから・・・」と迷っている方も、一度遊びに来てみませんか？



氷川町公式LINE  
でも発信中！



イベントや教室を  
毎月開催しています！

子育て支援センターでは親子で楽しめるイベントや専門の講師による教室を行っています。日程は毎月発行されるおたよりや氷川町ホームページでもチェックできます。※事前予約が必要な教室もあります。



ヨガ教室



クリスマス会



おたより



町民文芸

投稿先 〒869-4814 氷川町島地642番地 企画財政課宛（毎月5日必着）

・こども家庭センター ☎0965-62-3456

短歌

土を撥ね緑褐色の芽をもたぐ  
球根あはれ春の水やる  
北野津 井田 道寛

転ぶなよ！朝あさなにライン来る  
息子のことば常に重たし  
西上宮 廣松 真実子

坂多き町より来たる子どもらが  
自転車で行く千拓の道  
上鹿島 三枝 恵

もう一度迷って見たい紅葉がり  
錦襦緞子山に被せて  
西野津 古崎 スエノ

プランターの花の水かけ受け持ちちて  
花々鮮む春光日  
西野津 古崎 栄子

俳句

坂越えて友の情や梨の花  
西野津 古崎 スエノ

つわの花わが家の門部照しけり  
西上宮 廣松 真実子

紋白蝶ひらひら何か言ふ如し  
北野津 井田 道寛

卒業式子らの校歌に声合わす  
上鹿島 三枝 恵

春日和影は野良猫庭木にも  
西野津 古崎 栄子

吉野梨百二十年の白き花  
西上宮 山下 環

新年度がスタートし、あっという間に1ヶ月が経ちました。少しずつ新しい環境にも慣れはじめた頃ではないでしょうか。図書館では、今年度もさまざまなジャンルの図書を揃え、みなさんのニーズに応じていきたいと考えています。

八火図書館だより

☎0965-62-3489

お知らせ



「2026年本屋大賞」が発表されました

八火図書館では、毎年恒例の「本屋大賞」受賞作を、特集コーナーを設置して紹介しています。（本屋大賞とは全国の書店員さんの投票によって選ばれる、今もっともおすすめしたい本の上位10作品です）また、今年度の受賞作品に加えて、過去の本屋大賞の作品も揃えてありますので、ぜひあわせてご利用ください。

新着図書紹介

■ 一般書

明日、あたらしい歌をうたう / 角田 光代

ルカとチカ / 長野 まゆみ

猿 / 京極 夏彦

棺桶まで歩こう / 萬田 緑平

■ 児童書

にぎりめしくんとのりむすびくん / てぶ

にげろにげろ / 新井 洋行

そうっとそうっと / 田中 友佳子

絵本ってどうやってつくるの？ / ダニエル・ナップ

おすすめ図書

音読するだけで脳が若返る本 / 和田 秀樹

最新脳科学が証明！音読こそ最強の脳トレである。この本に収録された70編の文章を声に出して読むだけで、脳が若返り、活性化につながります。これからの人生を楽しく、機嫌よく過ごしたいと願う方々にお勧めの本。

『金閤寺燃ゆる』 三島由紀夫「金閤寺」から その18

法道寺 本田 花風

第六章  
溝口と柏木、二人の障害者として描かれている。六章に限ったことではないが、二人の関りがこの小説の根幹を貫いているが、二人の会話は混迷を招くほどに深淵である。鶴川が亡くなってから、溝口の日常もまた死んでいた。意識の城塞に閉じこもり、他者との壁はますます高くなった。これと同時に、翻訳物の小説や哲学書を読み漁るようになった。  
「金閤の美の与える酩酊が私の一部分を不透明にしており、この酩酊は他のあらゆる酩酊を私から奪っていたので、それに対抗するために、別に私の意思によって明晰な部分を確保せねばならなかった。かくて余人は知らず私にとって、明晰さこそ私の自己なのであり、その逆、つまり私が明晰な自己の持ち主だといふのではなかった。」  
この引用文、溝口の独白であるが、もはや何を語っているのか意味不明、即ち、三島の心象は余人には理解できないことを示しており、もはや語るどころではなく、柏木が尺八を贈るために会いに来た。柏木の美に関する考察が自分のものよりはるかに精緻だったことを発見するが、溝口は柏木と親しくなるにつれて、自分の美に対する考察も深めてゆく。柏木の台詞の名シーンを紹介する。  
「何故って、美は誰にでも身を委せるが、誰のものでもないからだ。美というものは、そうだ、なんと伝つたらいいか、虫歯のようなものなんだ。それは舌に触り、引っ掛かり、痛み、自分の存在を主張する。」  
美は誰にでも媚びて来るが、誰にも所有できないものと言っているのである。ますます混迷は深くなる。

